

## 生活

旬のくだもの 荔枝  
中国南部原産で、楊貴妃のために玄宗皇帝が都まで運ばせた逸話は有名。うろこ状の硬い皮をむくと中から半透明、乳白色の果肉が現れます。

くらしのこよみ

うつくしいくらしかた研究所

## ◎ 東京新聞

## ● がんの緩和医療

胃がんによる患者の苦痛には、がん性腹膜炎による腸閉塞をはじめ、リンパ節や骨への転移による痛み、腹水がたまることなどがあがり、緩和ケアが必要になります。患者は、十分な食事ができないこ



Dr.松井英男の

## 在宅医療のカルテ

とも多いので、カロリーの高い点滴によって体力を維持することも重要です。しかし、「悪液質」といって、栄養分ががん細胞に取りられ、脂肪ばかりか筋肉までがやせ衰えてしまい、体に炎症反応が起る場合もあります。そうしたケースでは、栄養は口から少量取るのにとどめ、腹水や手足のむくみ、たんの量を減らすためにも、点滴自体をやめることもあります。

Tさんは、胃がんの手術をしてから順調に回復していましたが、ある時、腹部が張ってきたのに気が付きました。主治医に話し、検査をした結果、腹部全体にがんが広がっている状態であることが分かりました。がんが再発していた

## 患者の意思も尊重

のです。初めは、少量の食事を取ることでもできましたが、次第にそれも困難に。利尿剤による腹水のコントロールを行いました。あ



訪問診療での血液検査

まり効果がなく、急激に衰弱してしまいました。

Tさんは、思い出深い調度品や好きな絵画に囲まれて最期の時を過ごしたいという願いがあったので、当院が訪問看護師とともに自宅での診療に当たりました。腹水を抜くため体に管を通し、定期的な水を抜く治療も行いました。効果は一時的ですが、わずかな間だけでも苦痛が和らげばと、必要に応じて行うことにしています。点滴治療も途中でやめたため、体のむくみもなく、呼吸も安らかなまま最期の時を迎えることができました。最期に当たって、自分が何を眺めながら過ごしたいのか、このことを一度は考えてみてはいかがでしょうかと思います。

(川崎高津診療所院長)

次回回は二十一日掲載